巻頭特集　桑名で生まれ、成長を続ける世界的企業

NTN 株式会社桑名製作所

桑名製作所オリジナルキャラクター
ファンビーくん

「NTN」と聞くと、シティホールや総合運動公園、
そして毎年、多くの感動をもたらしてくれる
7月の桑名水郷花火大会を思い浮かべる人が
多いのではないでしょうか。
2018年、創業から100年を迎えたNTN株式会社。
世界33カ国、219拠点を構える企業は、
21歳の若き技術者が桑名市で立ち上げた
小さな鉄工所からはじまりました。

桑名製作所オリジナルキャラクター
ファンビーちゃん

「桑名水郷花火といえば、NTN」というほど、毎年多くの人を感動させてくれる花火

シティホールでは8月、子どもたちを対象とした自然エネルギー教室「回る学校」を開催

学童野球のNTN杯では、選手全員にメダルが配られます

「産業の米」ともいわれる多種多様なベアリングを製造

青色に「NTN」と書かれた看板を掲げる建物が密集するNTN株式会社桑名製作所。「ナゴヤドーム4個分の敷地には、現在、1165人が働いています」と話すのは、桑名製作所の上田智所長。産業機械向けのベアリングや精密機器を主に製造しています。

ベアリングは、ものを動かすときに発生する摩擦を減らし、滑らかに動かすための部品。自動車や電化製品のほか、風力発電、立体駐車場、医療機器、航空機など、あらゆる機械に用いられています。「『産業の米』ともいわれ、回る動作を持つ製品であれば、ほとんど使用されています」と堀田勉副所長は話します。

外輪、転動体、内輪、保持器という4つの部品から成り、100年前からその基礎は変わりません。桑名製作所では、内径5㎜の小さな製品から外径2.5mのものまで、大小さまざまなベアリングを製造。多様な機械に対応しています。

50坪ばかりの鉄工所が純国産の基礎づくりに貢献

1918年、創業者の西園二郎氏は、桑名郡桑名町内堀（現・桑名市内堀）に西園鉄工所を設立。初代社長を務めたのは、大阪で機械工具商を営んでいた丹羽昇氏。両者の関係は、精米機生産の依頼をきっかけに始まりました。

1922年、ベアリングを積んだスウェーデン船が横浜港で沈没。当時、日本には輸入ベアリングしかなく、スウェーデン製は高価で高品質でした。沈没船から回収されたベアリングを丹羽氏が落札し、西園鉄工所で再生。販売すると予想以上の利益を得たため、ベアリングの国産化を目指しました。

1923年、丹羽氏のN、巴商会のT、西園氏のNの頭文字をとった「NTN」の商標を用いてベアリングの販売を開始。国鉄や自動車部品販売会社、家電メーカーなどから次々と注文を受け、着々と成果を上げていきました。

1934年には、日本で初めて航空発動機用の超高速ベアリングの開発に成功。航空機の純国産化を可能とする基礎を築きました。1937年、「東洋ベアリング製造株式会社」へ改名。「1989年までは、東洋ベアリング株式会社だったので、『東ベア』『洋ベア』の呼び方になじみがある方も多いのではないでしょうか」と上田所長は目を細めます。

内堀にあった西園鉄工所。ここからNTNの歴史がはじまりました

1939年に移転した新工場。当時、工場の周辺には田んぼが広がっていました

創業者の西園二郎氏（左）と初代社長の丹羽昇氏。創業時、西園氏は21歳、丹羽氏は24歳という若さでした

現在の場所に移ったのは1938年。内堀にあった50坪の工場が手狭になっていた矢先、火災により主要設備を焼失し、桑名工場を建設しました。1945年、第2次世界大戦の本土空襲が激化すると、航空機の主力工場であった桑名工場は標的に。無残な姿に一変し、操業が再開されたのは1947年になってのことでした。

戦後の復興期から高度経済成長期において、ベアリングは農業、工業、医療、運送など幅広い業界から求められました。メーカーに寄り添いながら商品開発と品質向上を続け、事業を拡大。海外展開は、日系自動車メーカーの海外進出に伴ったものでした。

現在ではドライブシャフト、ハブベアリング、精密機器も製造する総合産業メーカーへと成長。「すべての原点は桑名で生まれたベアリング。桑名製作所は全世界工場のマザー工場と呼ばれています」と上田所長は話します。

NTN株式会社
桑名製作所所長　上田智さん

地域とともに歩み100年 さまざまな事業で恩返し

2018年、西園鉄工所の設立から100年を迎えました。「100年も操業してこられたのは、地域の方のおかげ。これからも地域の方とともに歩んでいきたい」と上田所長。シティホールや総合運動公園のネーミングライツを得たのも、文化活動やスポーツで地域に貢献したいという思いからです。

スポーツでは、約60年の歴史を持つ陸上競技部が活躍。ニューイヤー駅伝に13年連続54回出場し、国民体育大会と全日本実業団対抗陸上競技選手権大会で優勝した短距離選手も所属しています。選手たちは市が開催するジョギング教室やかけっこ教室、小学校での陸上教室に参加。「桑名から世界で活躍するアスリートを輩出できるといいですね」と陸上競技部の部長も務める堀田副所長は期待を込めます。

NTN株式会社
桑名製作所副所長　堀田勉さん

多度山の再生に取り組む「NTNこもれびの森」では、植樹や間伐、草刈りや森林環境教育を実施。市内の清掃に取り組むクリーン作戦も実施しています。

7月に開催される桑名水郷花火大会は、毎年クライマックスの21分間に協力。2尺玉を17発も入れ込むなど、毎年さまざまな仕掛けで見物客を驚かせています。「毎年、花火師の方と一緒にテーマや構成を考えています。今年もすでに制作がはじまっています。楽しみにしていてくださいね」とほほ笑む上田所長。「地域の皆さんに喜んでもらえるのが一番。『NTNさん、ありがとう！』と会場で聞こえるのがうれしい」と、堀田副所長も笑顔で続けます。

産業を支える縁の下の力持ちともいえる、NTN株式会社。今後も発祥の地・桑名市とともに、時を刻んでいくのでしょう。

1_桑名製作所の周囲は、駅や高速道路のインターチェンジ、商業施設も増え、町の中にある工場へと変化　2_桑名製作所内にある展示スペースでは、さまざまな製品に使われているベアリングを紹介しています　3_ファンビーくん・ファンビーちゃんが付いたベアリングの構造を体験するキット。4つの部品をどの順番で入れていくかが重要です　4_転動体には、真球の「ボール」と円柱や円錐など左右に転がる「コロ」の2種類があります。ボールは、凸凹やひずみがあるとスムーズに回転しないため、地球上でもっとも完全に近い丸といわれています

NTNの陸上競技部。大きな大会で活躍する選手も普段は製作所内で働き、仕事もスポーツも能力を高めています

N.T.N.　NTN

社名は変更しながらも製品には、創業当時から「NTN」のマークが付けられてきました。現在は「For New Technology Network」の意味を持っています（左は創業時、右は現在のロゴ）

Information

NTN株式会社桑名製作所
桑名市大字東方字土島2454 TEL0594-24-1812

NTN株式会社産業機械技術開発センター
桑名市大字東方字尾弓田3066 TEL0594-24-1900

NTN株式会社先端技術研究所
桑名市陽だまりの丘5−105 TEL0594-33-1250

文／青野穂波　写真／NTN株式会社提供・田中真介　デザイン／ABBEYROAD